

創立50周年記念論文集の発刊にあたって

法学部長 遠 藤 賢 治

名古屋学院大学が創立50周年を記念して論文集を発刊する運びとなり、誠に慶賀に堪えない。経済学部開設直後に『名古屋学院大学論集』が創刊され、以来、外国語学部、商学部の増設が加わって発展してきたことに伴い、50年の長きにわたって刊行されてきたことは、先人の努力と精進の賜物であると同時に、これを支えてきた法人の理解によるものである。

この50年間の大学を取り巻く環境の変化は著しい。本学は、日本が戦後の復興を見事に果たし、高度経済成長が始まった時期に創立されたが、日本の経済・社会・文化の飛躍的發展の影で、思いもかけない困難な道を歩んだ歴史がある。本学において、そのような苦しい時代を乗り越えて、教員の研究が尊重され、その研究発表の場が確保され続けることによって得た成果は、貴重な財産であり、この業績に大きな誇りを感じないわけにはいかない。経済学部によって牽引された本学は、外国語学部、商学部の増設によって確固たる基盤が構築され、人間健康学部、リハビリテーション学部、スポーツ健康学部、法学部の設置によって幅広い分野への発展の軌道が敷かれたのであり、これに伴って、本論集の社会科学篇、人文・自然科学篇および言語・文化篇の内容が一層多岐にわたり充実し、医学・健康科学・スポーツ科学篇が加わった。本学に在籍した教員が本論集を通じて本学の研究力・教育力の向上に努めてきたことの証しといえよう。

これからの時代において、本論集に期待されるものはなにか。急激な少子高齢化、地域社会の衰退、世界のグローバル化・ボーダレス化など益々困難な問題を抱えた現代社会において本学に求められているのは、建学の精神と社会的な使命と無縁であるはずがない。本論集は、敬神愛人を教育理念とし、地域との連携を強くする研究教育を社会的使命としている。激しく変化する時代を建学以来変わらない本学のブランドをもって乗り越える必要があると思う。他者に謙虚に優しく接する心をもって、社会の改革を担う人材を育成し、研究教育の成果を地域に還元して地域の課題解決や活性化に向けた社会貢献を果たす知の拠点として開花することである。これまで培ってきた社会科学、人文・自然科学、言語・文化および医学・健康科学・スポーツ科学にわたる研究力に一層の磨きをかけるとともに、地域社会のニーズに応えるため、企業・自治体・住民等と連携した教育研究に取り組み、その成果を公表する場として、本論集に期待される役割は大きい。

名古屋学院大学論集が次の50年に向かって、新たな発展のための飛躍の一步を踏み出すことを望んで止まない。